

令和 5 年 第 8 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和5年7月10日（月）

開会午後1時00分、閉会午後2時05分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	黒田 卓	2番	町野 利道	3番	村上 美也子
4番	坪池 宏	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長	中崎 健志		
教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）		中家 立雄	
教育企画課課長（ICT教育推進担当）	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 3人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 議決事項

議案第24号 令和6年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

県立学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第25号 令和6年度富山県立学校募集定員等決定の件

県立学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第26号 富山県立高等学校通学区域設定規則廃止の件

- (1) 県立学校課長から説明した。
- (2) 陳情書により陳情者から陳述がなされた。
陳情（県立高校の普通科通学区域の撤廃に反対する陳情）
- (3) 原案のとおり可決した。

2 報告事項

- (1) 滑川市内中学校教員の公務災害認定事案に係る国家賠償請求訴訟の富山地方裁判所判決について
教職員課長から説明した。
- (2) 令和5年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒及び令和5年度県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果について
県立学校課長から説明した。
- (3) 富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標の改訂について
小中学校課長から説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議事

○議案第 25 号関係

〔大西委員〕

・ 只今説明にあったように子ども達の数が減っていくということで、今年はクラス減ではなくて定員減で対応される案が示されているが、結果、普通科で 35 人の少人数クラスが出てくることになる。このことがたとえばきめ細やかな指導ができるとか、個々の子ども達とより向き合うことができるとか、生徒達や先生達にどのような効果があるのかということをし少し検証するような機会になっていけば良いと感じた。また小学校がようやく 35 人学級になり、まだ中学校ではできていない部分ではあるが、せっかく県の方で予算を取っていただいでこのような対応をしていただければということでは是非また生かしていただきたい。

〔村上委員〕

・ クラスの数を減らすのではなく 1 クラスの人数を減らすということで、それぞれの学区における中学生の数とか志願状況に基づいて出された妥当な案であると思う。ここに中卒予定者 8,625 人とあるが 15 年後にはこれが 6 千人ちょっとになるので、丁寧な議論をふみながら皆がロードマップを描いて今後のことを丁寧に考えていく必要はあるなと感じた。

〔坪池委員〕

・ 基本的な考え、これまでの考えに則って出てきた妥当な案だと思う。ただ指摘があったように学級減ではなくて定員減ですと行くのはなかなか苦しいのではないかという思いもある。この後基準というか、あるいは方針というか、村上委員がロードマップとおっしゃいましたが、そういうものを早く作っていく必要があると思う。

〔町野委員〕

・ 学級の定員についてはいろいろと議論をしてきたが、私は教員の経験はないが企業内で一生懸命教育についてやってきた。実際、何を教育するかによって 1 つのクラスの定員は決まってくるのではないかと思う。企業に入っても、いわゆるヒューマンスキル教育とテクニカルスキル教育の 2 つに分けてやっているが、特に学校はヒューマンスキル教育が非常に重要なのではないかなと思う。ここはけっこう人数が多いといいのかなと。テクニカルスキルはたとえば理科の実験をするのだと 10 人でやるのか 5 人でやるのか、そういう必要がある。要するに今言っている 1 クラス何人というのは何のことを言っているのかと思う。単に全県で高校に入学する子ども達が何人いる、それが学校が何十校あって、いくつかに分けていく分け方の問題だけ話していて、本当にどういう教育をどれ位の人数でどういうふうにするかというところに議論がいつているのか。教育委員会の方で 1 クラス何人といって、それが社会においてあつたこうだと言っている。本当にそれは何の意味があるのかと思う。本当のところはどういう教育がどれだけの人数で、先生が何人でどうやってやるということの方が重要じゃないかと思う。あまりここを言ってもしょうがないのではないかと思う。

〔黒田委員〕

・ 募集定員のところに関して、今年度の決定というか提案は賛成したいと思う。いま村上委員がおっしゃったようにロードマップをどうつくるかというのが非常に重要なところで、子ども達、少人数教育が果たして高校レベルでいいのかどうかという検証もそうだし、学校規模が小さくなってクラスが小さくなっていくと教員数もおおのずと減っていくので、そうした時に 1 つの学校としてやらなければならない業務が大規模校と中小規模校も同じようにあるので、結局先生方の働き方改革ではないが、負担が非常に大きくなっていくことも加味しなくてはいけないのではないかと思う。そんなに時間はないのだと思うが、慎重にというか丁寧にということでは必要なのかなと思う。それと今後どういう形になるのか気になる。結局、今どこの学校を減らすという議論もある程度教育委員会の方で案を作って出してくるようになっているが、各学校も今特色を出していろんなことをやり始めているので余計難しくなるが、どういうふうに関後富山県の高校を配置していけばいいのかを考えていく必要があるのかなと思う。

〔教育長〕

・ 今後ロードマップが必要という意見もその通りだと思う。今年度新しく県立高校教育振興検討会議を設けて、今後の生徒減少への対応とか、今後の高校の配置のあり方、学科・コースのあり方等の検討とかを進めはじ

めたところなので、その議論の中でしっかり準備していければと思う。

また少人数についても、現在 40 人が学級標準というふうに国の方でベースがあるものだから、そこから大きくかけ離れたことをやるのは現実的に難しい部分があるが、来年度について普通科の入善では 2 つのコース、観光ビジネスや自然科学のコースがあるので、そういう分野では言ってみれば町野委員がおっしゃったテクニカルスキルの実習みたいなことを取り組むコースだし、また伏木の方の国際交流科も語学学習だとか、そういう学びもやる場所なので、そういうところでの少人数教育の状況も確認していきたいと思う。

○議案第 26 号関係

〔教育長〕

- ・本議案については関連する陳情が 1 件提出されている。あわせて意見陳述の申し出があるが、富山県教育委員会陳情取扱要綱第 3 条の規定に基づき、これを認め陳情者から事情を述べていただきたいと考えている。なお時間は 5 分としたい。5 分を過ぎたら事務局がベルを鳴らすのでお願いしたい。では陳情について、富山県高等学校教職員組合から陳情をお願いする。

〔高等学校教職員組合 中山氏〕

- ・それでは今ほど提案のあった県立高校普通科の通学区域設定規則の廃止について意見を陳述させていただく。まずはじめに来年度の県立高校募集定員については中学校卒業生減少に対して学級減ではなくて少人数学級の拡大で対応すると決定されたことについては大変な英断だと受け止めている。今後の高校教育のあり方についての大きな一歩、活気となる決定だと思う。定員減となる当該の学校の教育がきめ細かくより充実するものとなる、そういうメッセージと一緒に公表していただきたいと考えている。
- ・今ほど提案の普通科通学区域の撤廃については大きな問題だと私たちは考えている。基本的には撤廃には反対であり、少なくとも今後の教育振興の議論と並行して慎重に協議をしていただきたいということが陳情の趣旨だ。まず今回の通学区域を撤廃することについては選択の幅、特色化が前提となっているが、これが本当に学区の撤廃を必要とするものかどうか、それは今後の議論次第だと考えている。もともと普通科は普通教育を主に行うものであって、その特色化の難しさは昨年度の県立高校あり方検討委員会の中の委員のご意見でも述べられていたことだと思う。体育、音楽という教育課程上客観的な違いのあるコースについてはすでに全県一区の募集になっている。一方、社会、家庭環境の変化で生徒が多様化して、学校教育は現在でもかなりオーバーフロー状態なのは皆さんご存知の通りだ。ここに対して新たな条件整備、投資なく一層の特色化、付加価値を求めるということは教職員の負担増、現在行われている教育活動へのゆがみをもたらす恐れがあると考えている。理想は無理なく通える場所に学びたい場があるということだと思う。そして高校の特色は入学してきた生徒の実態に応じたきめ細かい教育の中から醸成される。高校生は学校の特色づくりの主体であって、営利目的の商品やサービスを選んで購入する顧客ではない。この前提で議論をしていただきたい。
- ・懸念や慎重意見はやはり通学時間についてであり、それに対する展望が今まだ示されていない。実際に片道 1 時間以上 1 日 3 時間以上通学にかけている高校生が今でもいる。大変な学校生活への制約になっている。通学区域の設定は制限ではなくて教育的配慮に基づく 1 つの保護だと考えている。これを撤廃して自己責任としてしまうのは教育上どうなのかなと非常に疑問に思っている。特色化を含めた高校教育のあり方、今後の県立学校や学科の配置、公共交通機関や通学費補助等、総合的施策の方向性の協議を踏まえ慎重にこれからも協議をしていただきたい。

〔教育長〕

- ・只今の陳情の中身について何かご質問等あればお願いしたい。

〔町野委員〕

- ・今のお話の中に学区で行きたいところがあって学区の中にあればそこに行けるけれど、全県一区になったら行けなくなる、遠いところに行かなくてはいけなくなるという話は、現在のたとえば具体的にいえば、新川学区に行きたい学科がある、それが将来なくなってしまうとすれば当然遠くに行かなくてはいけないでしょうね。だけど、それがずっとあるのであれば何も遠くに行かなくてもいいのかもしれませんが、その辺がわからない。

〔高等学校教職員組合 中山氏〕

・ご質問の趣旨がストーンと落ちてないのだが。今検討されるのは普通科の通学区域であって、普通科については基本的には4学区、各市町村を見てもほしい県内バランスよく配置されていて、人口の多い富山、高岡学区においては複数配置されていると思うので自分の学区からまったくなくなってしまって遠くに行かなくてはならなくなるとはあまり考えていないが。

〔町野委員〕

・通学が不便になるというお話があった。その辺がわからないのだが。

〔高等学校教職員組合 中山氏〕

・今は要するに隣接の学区までは志願できることになっていて、今の撤廃はそれよりも向こうの学区まで行けるようにするという事だと思っている。基本的に今も申しましたけれど、普通科高校というのは居住する学区内に当然複数あるし隣接する学区を含めると十分選択できるだけのものがある中で、それを撤廃してしまうことは、その向こう側にも行けるとすることだが、陳情書の中にも書いてあるが、それができるのはかなり限られた校区であり家庭であると考えている。実際そうしたら、先ほども言いましたが費用は何とかあると思うが時間的な制約が大変大きなものになるだろう。そこまで考えないで無理なく通学できるような範囲から選びなさいよというのが、先ほど申しましたけど、一定の教育的配慮に基づく保護であると考えている。

〔町野委員〕

・さっぱりわかりませんね。それは本人なり親と一緒に選択する話であって強制されて離れたところに行くことではない。なにか言われていることが変なのでは。

〔高等学校教職員組合 中山氏〕

・ただ昨年度の総合教育会議でも中学校の校長先生が言われてましたけれど、一旦志願するけど、やっぱり保護者と一緒に行ってみたら、1日ならいいけど3年間毎日というのは厳しいから志望を変えるという子がいるという例もあった。私、実際に全県のところで離れた学区から来ている子を受け持ったこともあるが、本当に3年間大変だった。それを選べるようにしてしまうことが教育的に良い事なのかどうか。そこも含めてだ。

〔町野委員〕

・今の話はよくわかる。解決方法が、転校をもっと簡単にできるとする方向にすべきであって、学校を分けることにしておいて機会を広げることをやめるとするのはちょっと違うのではないか。

〔高等学校教職員組合 中山氏〕

・それは述べましたけれども、他の要素の検討とあわせて慎重に協議していただきたいという意見だ。

〔教育長〕

・他にはどうか。

〔村上委員〕

・通学にかかる時間というのは1つ大事な要素であると思う。しかしながら普通科以外は全県どこにでもということになっており、そこには子ども達の自由な意思が働いて決めている。もちろん相談した上で決めていると思う。彼らの選択肢を狭めてしまうことから、今後はそれを決められる方向に持っていく方がいいのではないか。それが高等学校なのではないかと思う。小さな小学生には申しませんが、大人になる前の高校生という大事な年代においてその選択が許されるということはその子にとっては大きなことではないかと思う。

〔県立学校課長〕

・現状、普通科以外の学科で現在の通学学区を越えて入学している生徒は実際にいる。令和4年度19名、令和3年度は16名、令和2年度では21名いる。これは全体で見ると割合的に少ないし、多くの生徒達は部活をするために特定の学校を選んでという生徒が多いと思う。仮に普通科でこういうふうにして全県一区にしても、数的にはそれほど多くならないのではないかと考えているし影響も少ないと考えている。

〔大西委員〕

・私も前の5月から学区撤廃については賛成で、その方向でと意見を申ししていたが、やはり通学時間が長い

は保護者として心配なことではあるし、自分の子どもが帰ってこないと不安になることもあり、それは私のうちでもそうだが、しっかりと話し合っただけで進学する学校を決めたわけだが、先ほどのお話でもあったが今後のロードマップを決めていく際それぞれの近い学校に、この学区では受けられないという制約が生まれてこないようにすることが大事なのかなと思う。この学区を1つ飛び越えてここに行かないとどうあってもないというものが多くならないようにしていただければと思う。

〔黒田委員〕

・前回の総合教育会議のところでも通学区を廃止することによってどこかに集中するのではないかと心配もされていたかと思うが、先生方の可能な範囲でだと思いが、1つの学校が今スクールポリシーをあげて、いろんな学校の特色などを明確に出せるようになってきているので、そういうことをうまく使っていただくとか、全県でどこの学校でどんな特色をもってどういう教育をしているか知っていただくチャンスになると思うので、そういうことを少し意識していただければ、子ども達もそういうものを見ながら各学校のことを調べながら選べるようになっていくと思うので、全県一区になっても問題ないのかなと思う。

〔教育長〕

・それでは議案第26号について裁決する。原案通り可決することとしていいか。異議がないので議案第26号については原案通り可決することとする。

・ご意見の中で、どこの地域にも学ぶ場所があるよというご意見もあった。今回は通学区域の設定を廃止するということがあったが、今後の高校の配置については各地域にバランスよく学ぶ場があるということは重視していかなくてはいけないと思っている。県立高校のあり方検討委員会のアンケートを行った中でも、学校を選ぶ際に重視することとしては第1には学力的な事や学習的なことをあげておられるが、2番目に通学の便を重視しているということがあるので、そこは大事にしなくてはいけないと思う。

○報告事項(1)関係

〔町野委員〕

・過労死された方がたとえば半年、1年の残業時間はどの位なのか。

〔教職員課長〕

・平成28年に亡くなられたが、その時はまだ各市町村で今現状やっているような客観的なデータに基づく勤務実態の把握をやっていませんで、認定するにあたって、この場合は市の教育委員会がその先生のパソコンの記録等を個別に入手したり、あとはご遺族からの申し出や、同僚教員の休みの間の状況等の聞き取りをすることで客観的なものを積み上げていった。そういう中でいわゆる公務災害として過労死レベルと言われる月80時間というところについては、100時間を超えるような実態が見えてきたというところで支部のところで認定された。

〔町野委員〕

・100時間を超えたというところで判断したということでもいいのか。

〔教職員課長〕

・公務災害の認定については認定の基準があるので、それに照らして公務上の災害であると認定された。それが別の病気の場合というか、今回の場合はくも膜下出血との因果関係というものについては公務災害との直接の認定はなかなか難しいということで実態をもって認定したということになった。

〔町野委員〕

わかった。

○報告事項(2)(3)関係

〔大西委員〕

・男女別進路希望職業についての感想だが、女性の就職希望の人は少ないと感じた。教育委員会でお話しても的外れかもしれないが、高校を卒業した女性が働く所が少ないのかなと感じたところだ。また逆に県外の高い偏差値の大学とかに進学するという話をする場合に、たとえば東大でも京大でもいいが、富山に戻ってきてどんな仕事をするのか、という話を聞いたことがある。女性にとって男性と同等に働く所も考えていかな

くてはいけないという感想をもった。

- ・もう1つ資質向上のための指標の改訂についてだが、指標そのものについてではないが、コロナが第5類に引き下げられて先生方の対面の研修会も元通りに増えてきていると聞いている。先生方も指標を実行していくために研修への参加と資質向上がもちろん大事だし備えていただきたいのだが、子ども達と向き合う時間、学校にいる時間もしっかりと管理職の先生方には配慮をしていただきたいと思う。

[教育長]

- ・女性が活躍できる職場づくりは、富山県の特に若い女性の県外転出が多いが、そういうところが課題ではないかと、大事な県政のテーマとしても取り上げられていて、企業さんにもそのあたりの女性の活躍についての理解を深めていただくことも必要だと思う。高校を卒業して女子の就職が男子よりも少ないのはよくわからないが、たとえば職業系専門学科で工業科は男子が多いと思うが、工業科の就職率が比較的高いため、そのあたりの男女比も影響しているのかとも思う。

[小中学校課長]

- ・委員のご指摘のとおりで、子ども達と向き合う時間を確保することは先生にとって大事だと思っているので、研修を進める際に対面だけではなくオンラインもしくはオンデマンドとのハイブリットという形で研修の形式を検討しているし、これまでもそういった形で進めているので、その方向で考えていきたいと思っている。

午後2時05分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。